

震災を受けての 乳幼児保護者アンケート（県北地域） 結果報告

2012年10月24日

作成者： 清水奈名子
（宇都宮大学国際学部）

お願い：印刷物やHPへの無断の転載は御遠慮下さい。また引用される場合には、以下のように出典を明記してください。転載の許可を含めて、その他ご不明な点は、最後のページにありますセンターの連絡先宛にお問い合わせください。

出典：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター(CMPS)福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト「震災を受けての乳幼児保護者アンケート（県北地域）」（2012年7月実施）より

アンケートの目的

- 十分に注目されていない栃木県北地域の被災状況を、乳幼児を抱えておられる住民の皆さまがどのように考えておられるのかを調査する。
- 調査した結果を、報告会での発表や報告書の作成を通して、多くの関係者に知らせ、問題への気付きと取り組みを促す。

→ 栃木県全体、日本全体の問題として共有するためのステップとして考えています

アンケート実施と回収の状況

実施時期：2012年7月4日から13日

実施協力：西那須野幼稚園

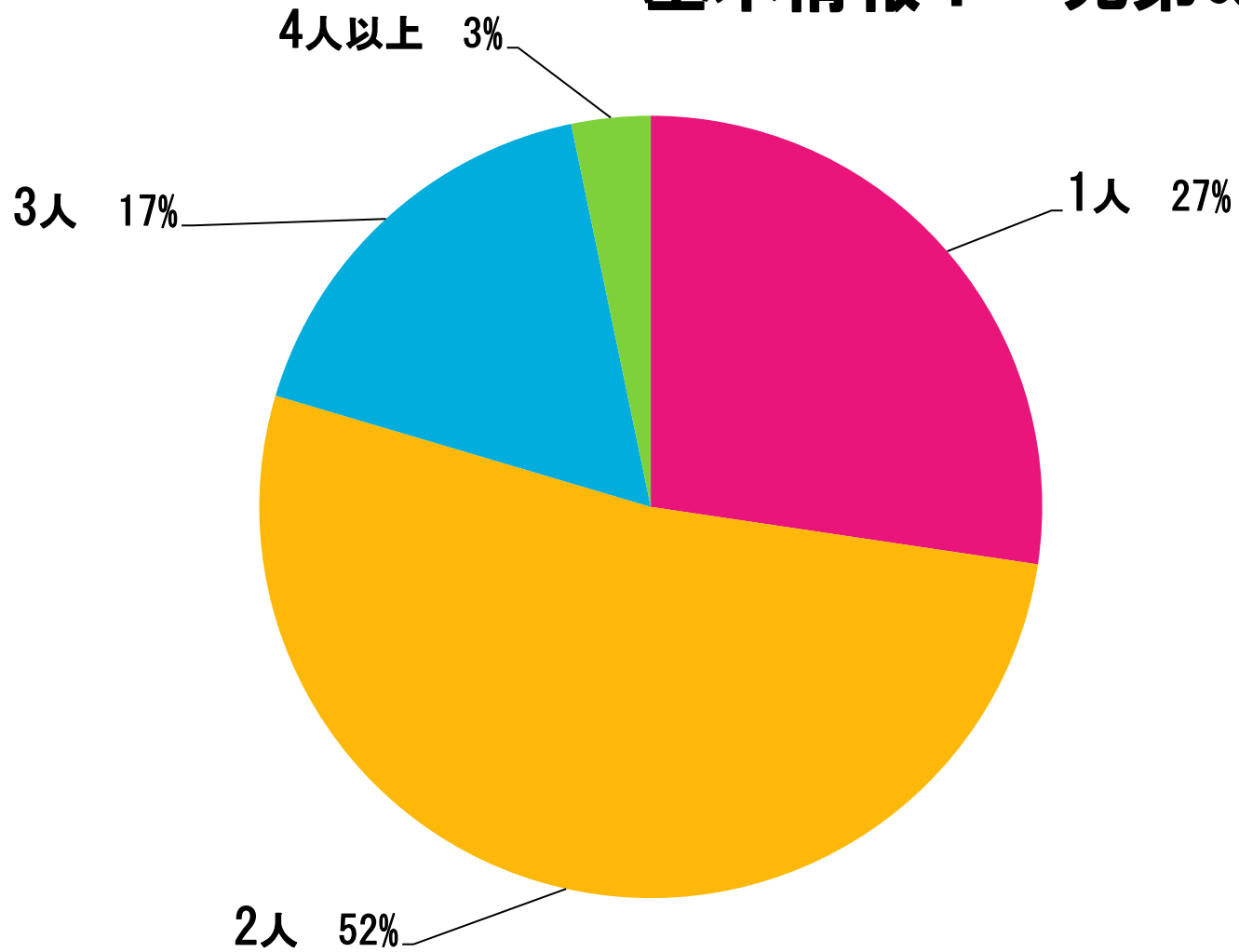
こひつじ保育園

(那須塩原市西大和)

配布対象：461世帯

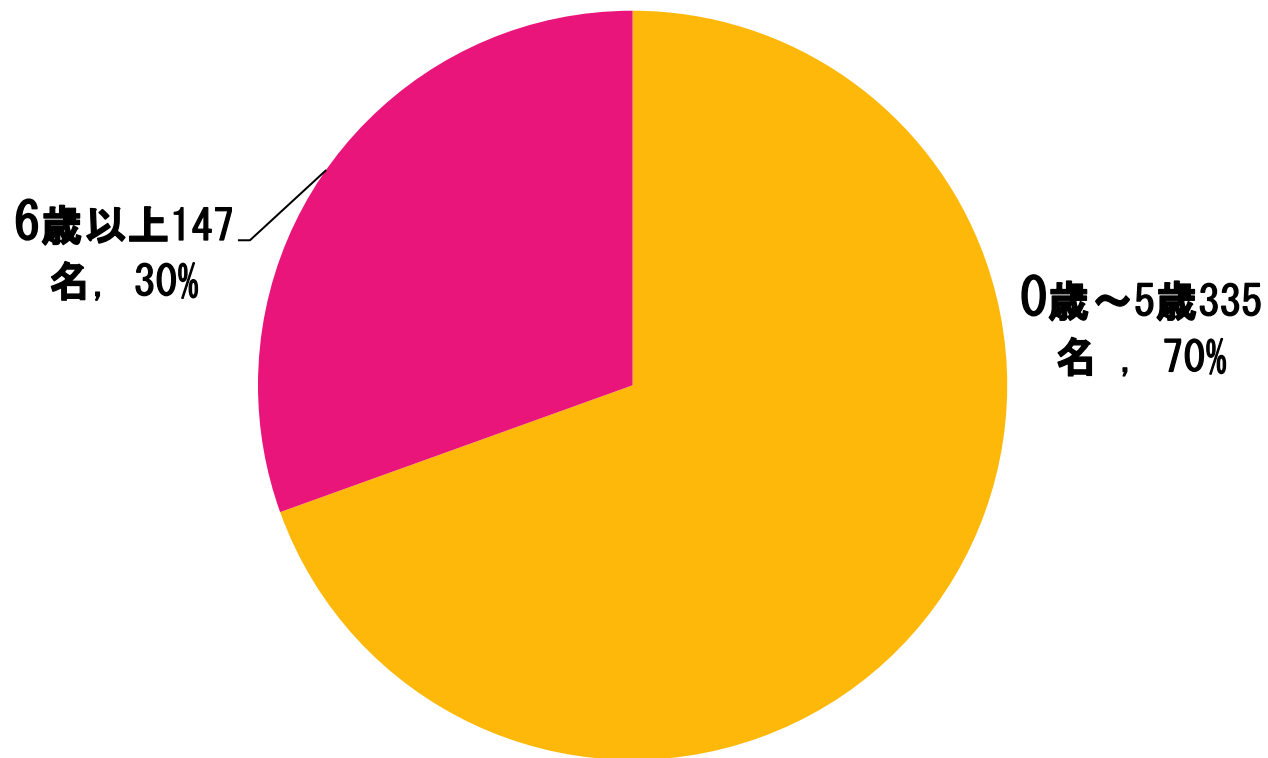
回収数：245世帯 (53%)

基本情報 1 兄弟の数

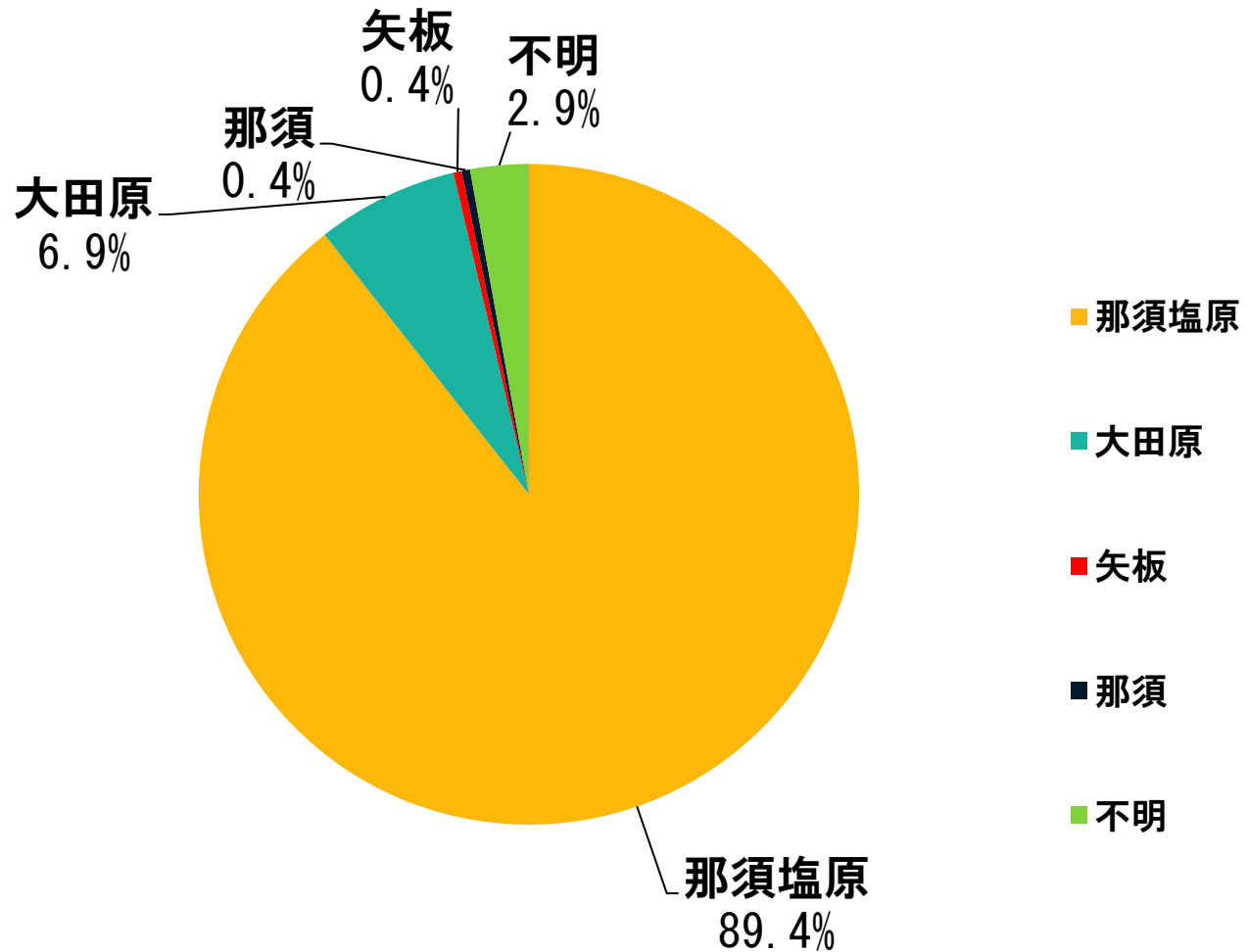


基本情報2

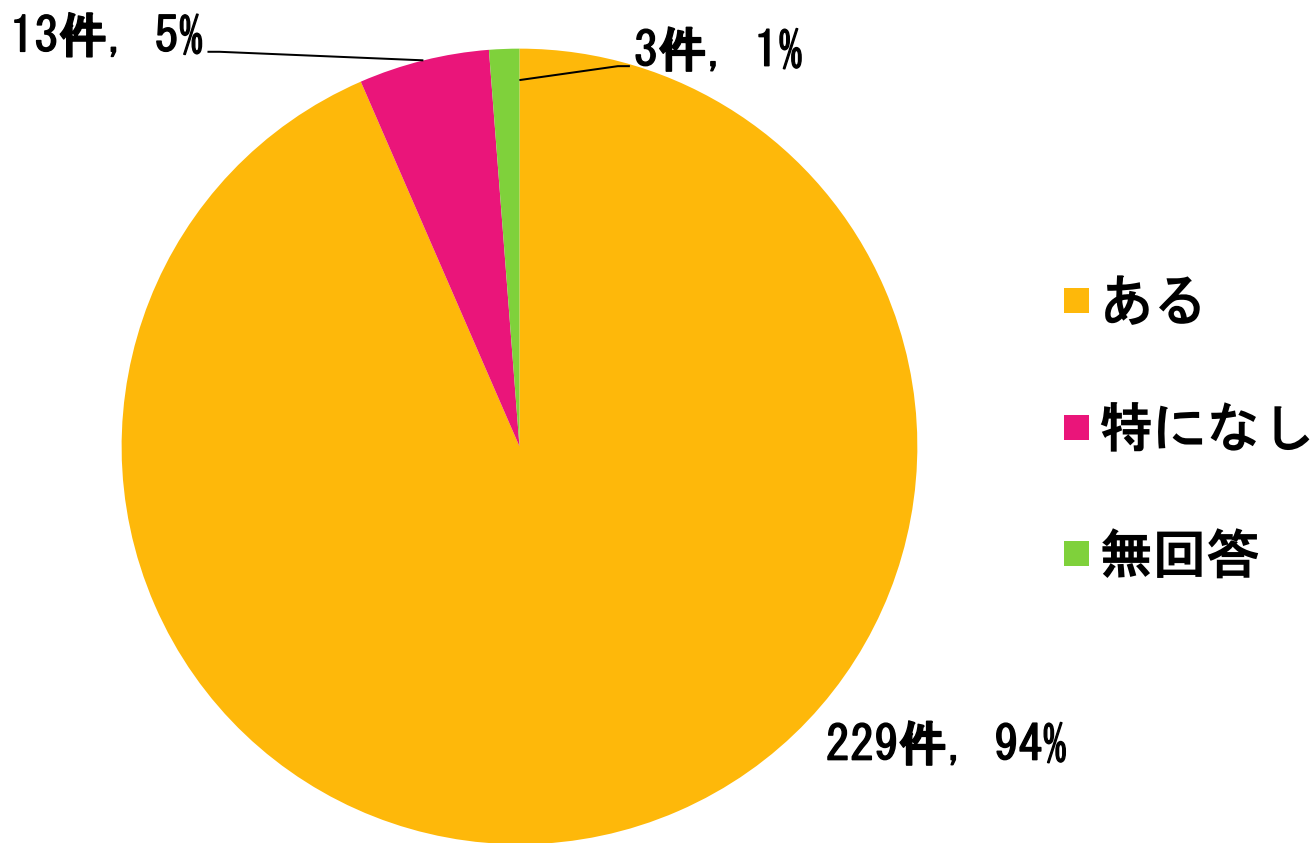
乳幼児の数



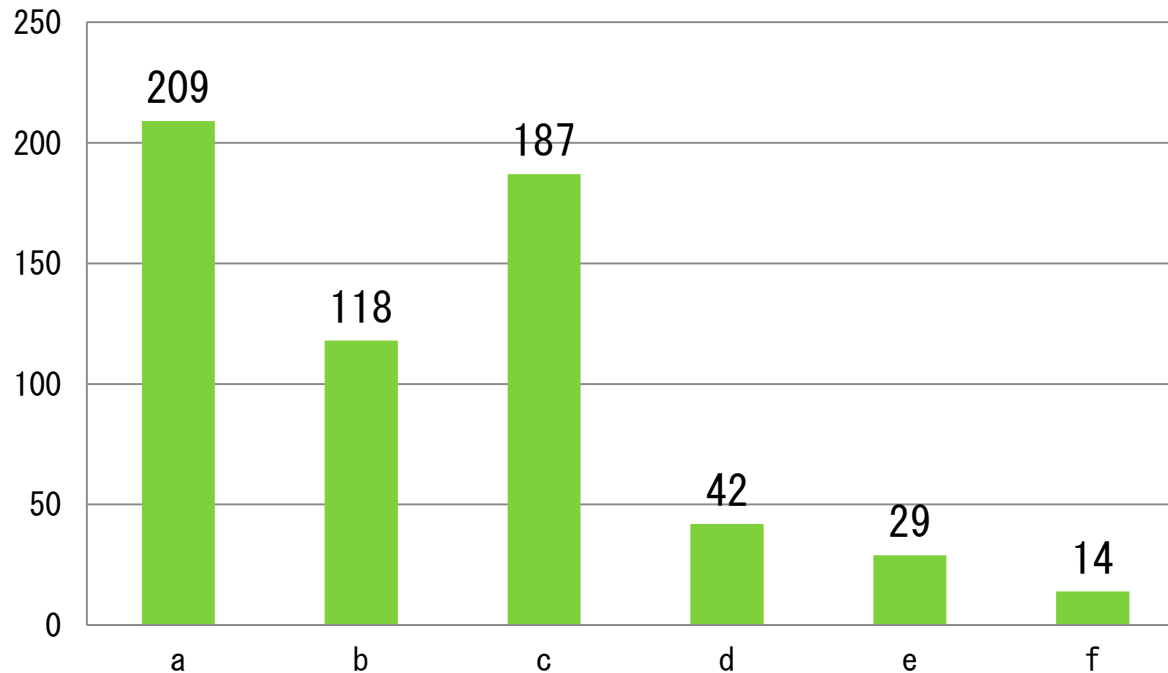
1 居住地域の分布



2-1 気になること・ 心配な事の有無

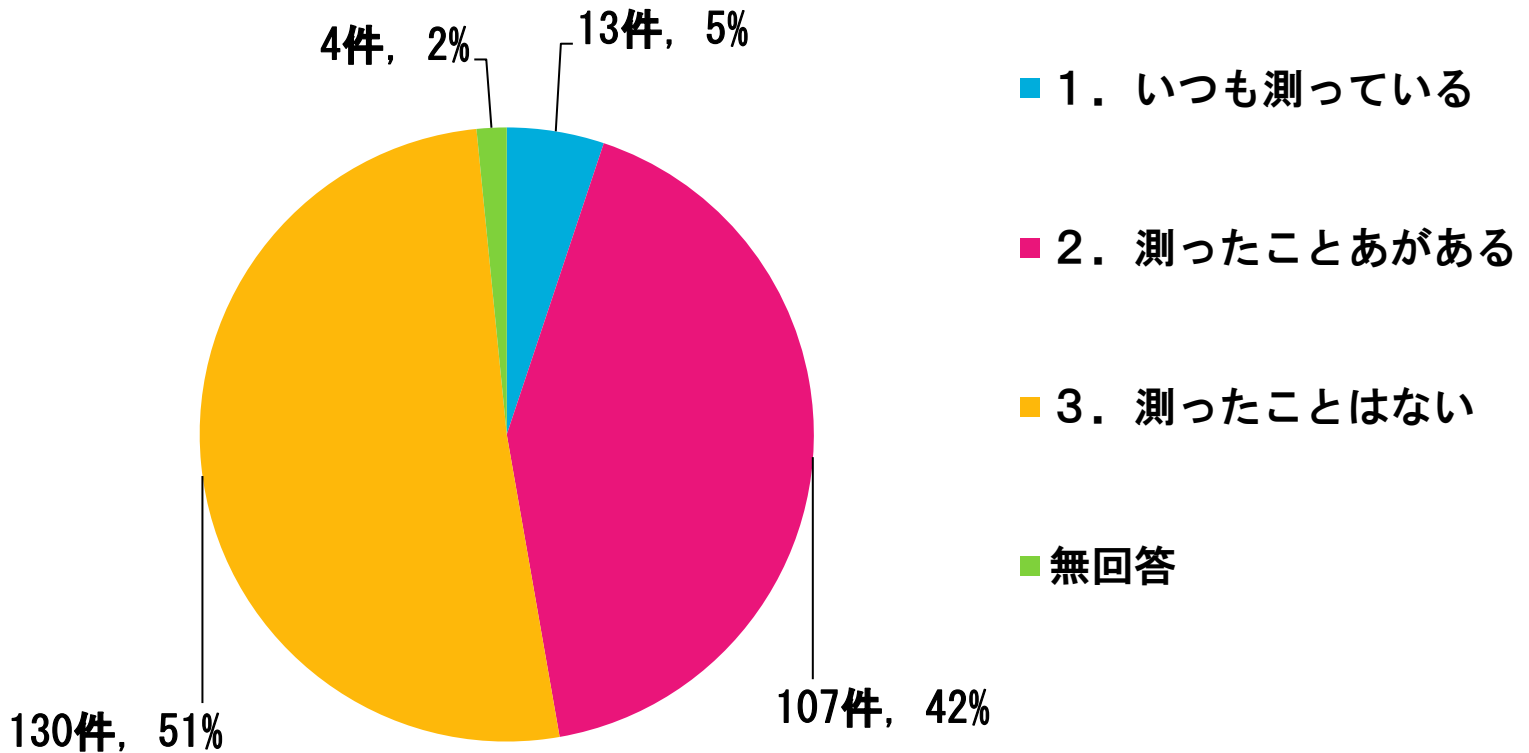


2-2 気になること・心配な事の内訳

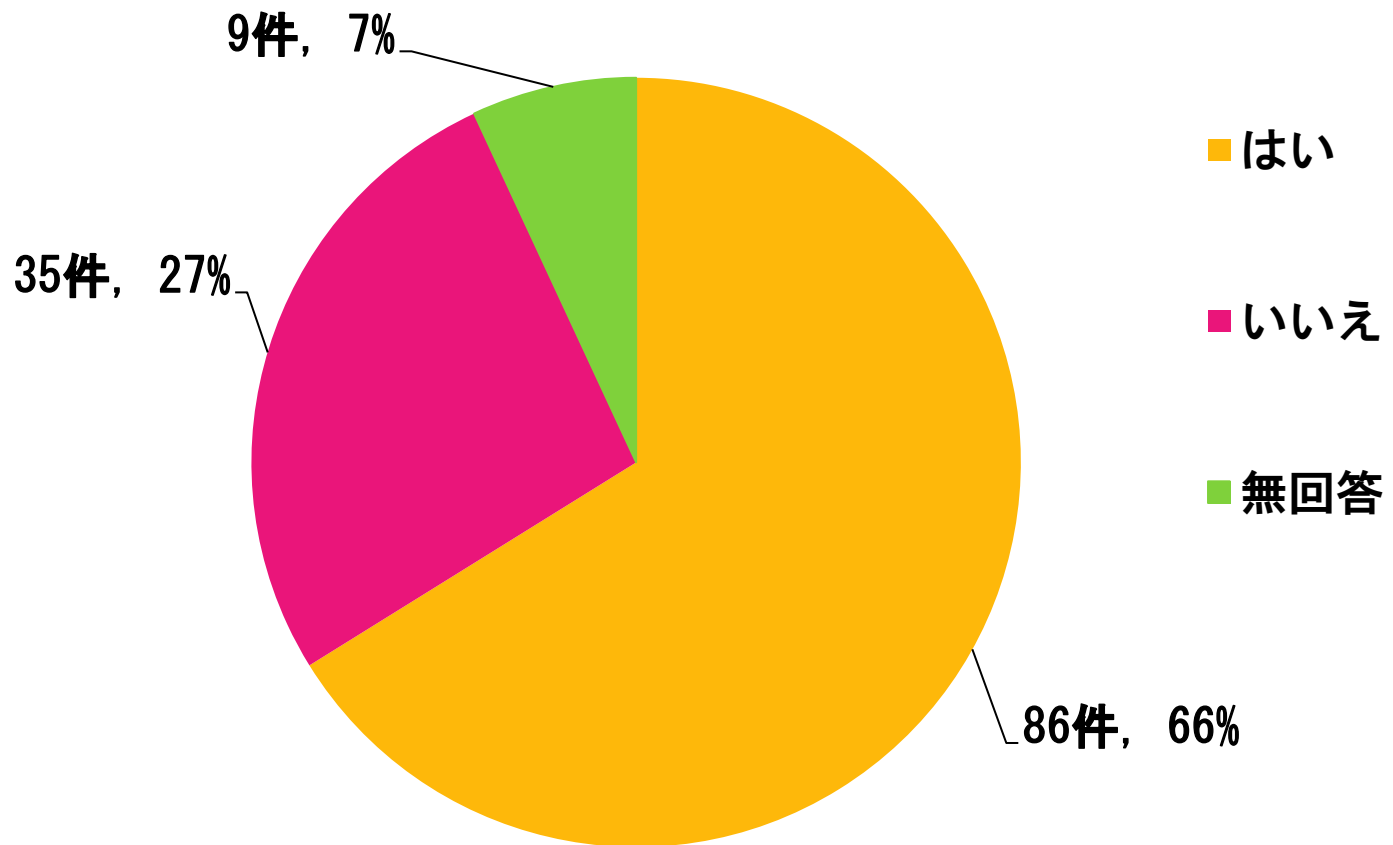


- a. 放射線の影響
- b. 外遊びやプール遊びの是非
- c. 食べ物や飲料について
- d. 震災後の不安感やストレスについて
- e. 震災以前とは異なる子どもの様子や健康状態について
- f. その他

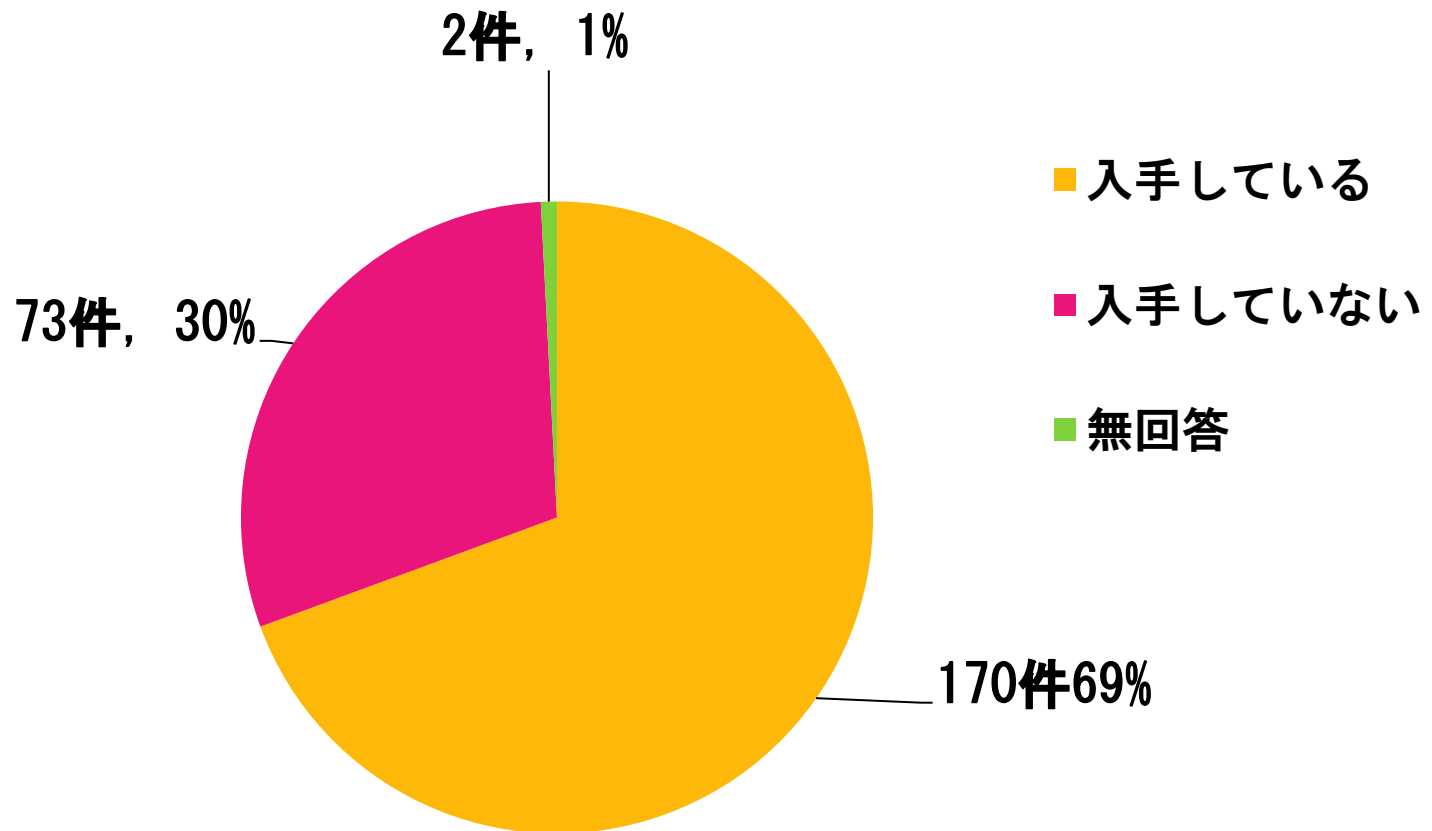
3-1 空間放射線量測定の有無



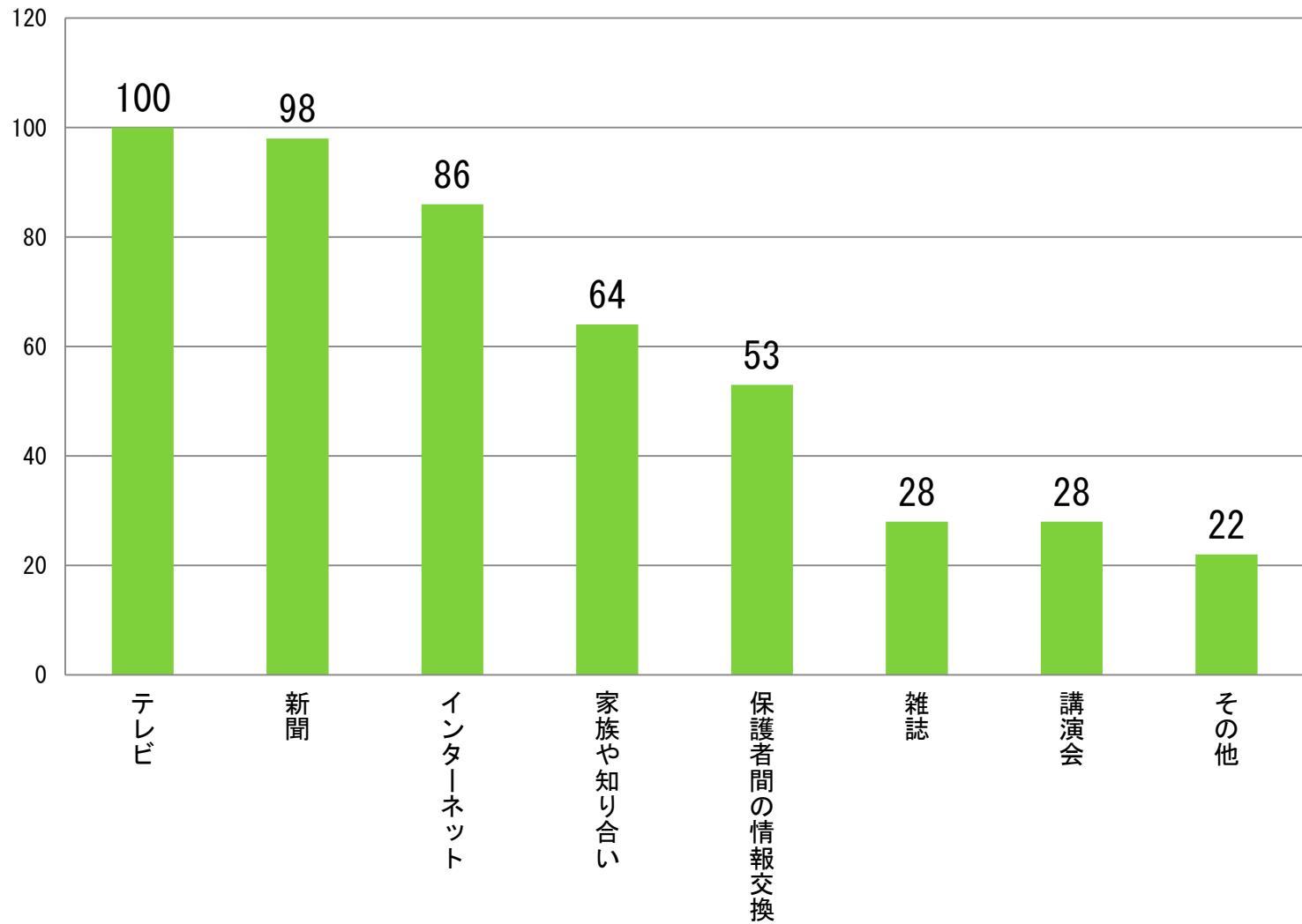
3-2 測定の希望（計ったことがないと回答した方のみ）



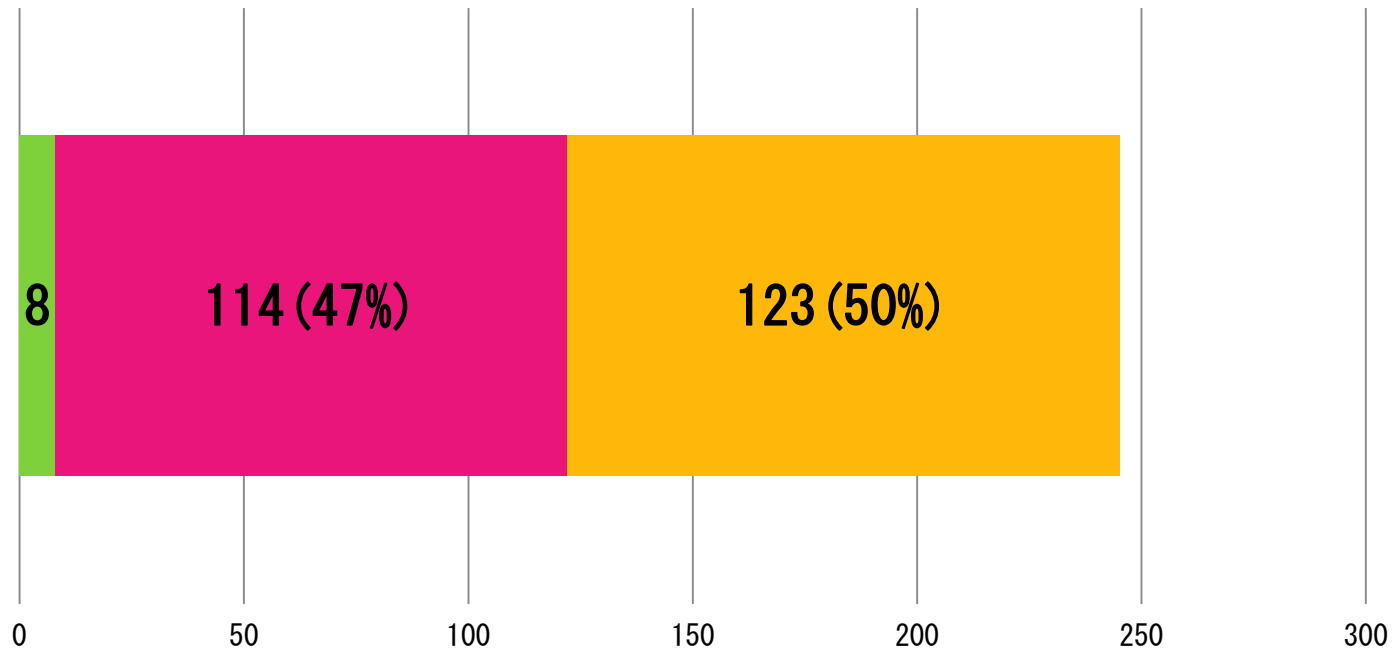
4-1 情報を入力しているか



4-2 主な情報源



5 家庭での対策



■ 無回答 ■ とっていない ■ とっている

自由記入欄から（抜粋）

<食品・飲料水>

- 食品や食材を買うときには、産地で選ぶようになった。
- 食材をよく水洗いする。
- 飲料水を購入するようになった。

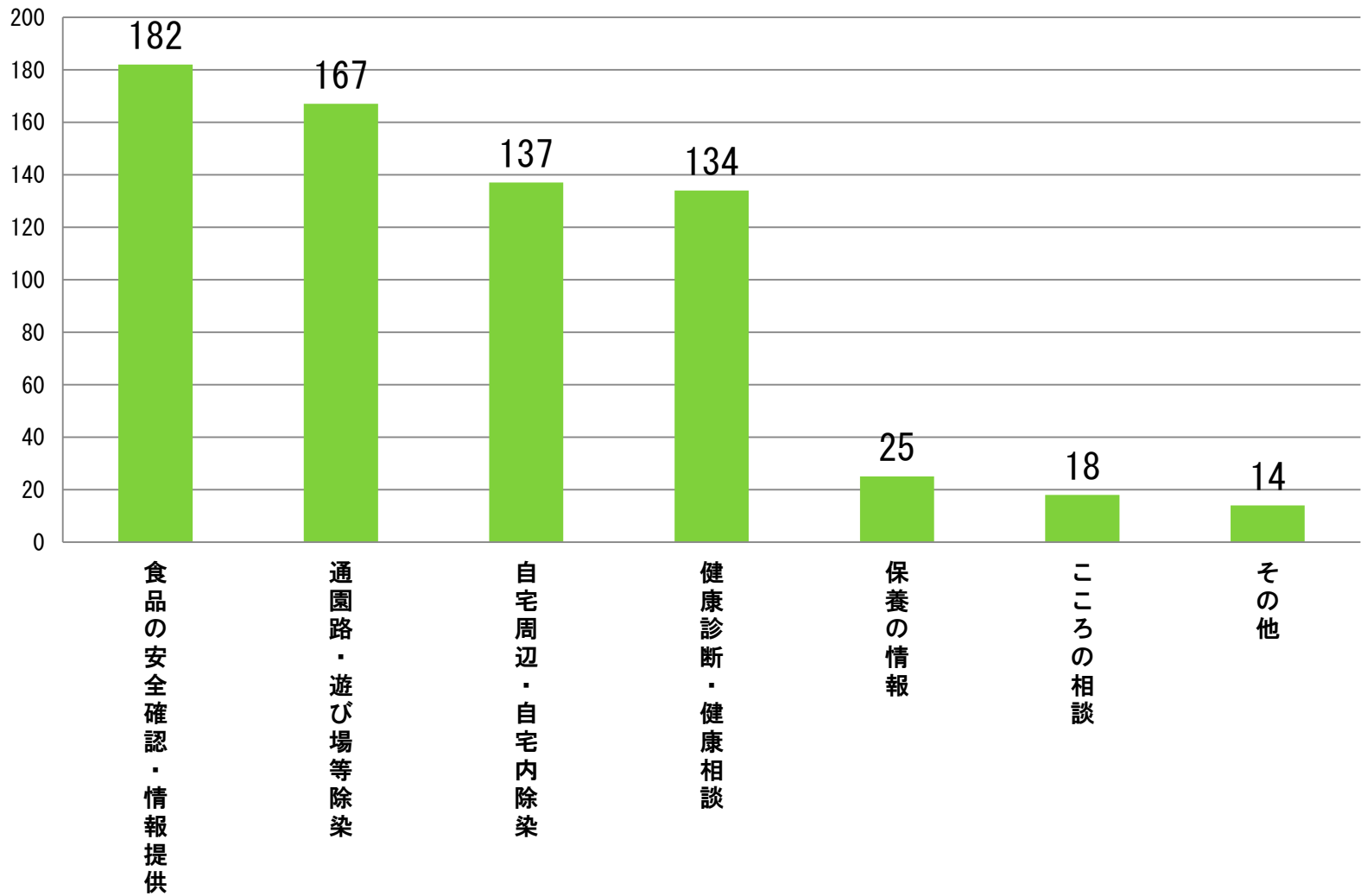
<外遊び>

- 外遊びの時間を短くしている。
- 線量が高い公園などには行かないようになった。
- 雨どいなど、線量が高そうな場所には近づかない。
- 帰ってきたら手洗いとうがいをさせている。

<その他>

- こまめに掃除をするようにしている。
- 洗濯物を取り込む際によくはたくなど。

6 自治体に希望する対策・政策



自由記入欄から（抜粋）

<除染>

- 公共の施設、遊び場、通園通学路等の早期の除染
- 各家庭の除染への支援・除去した土や草の引受
- どのような除染が必要なのかの情報提供

<健康診断>

- 無料・定期的な健康診断（甲状腺・がんなど）
- 内部被ばくの測定

<その他>

- 迅速で正確な情報の提供・放射線量の継続的計測
- 食品を検査できる場所の増設

7 幼稚園への要望

- 多くの方（9割以上）が、既に十分な対応を下さっていることへの感謝と、今後も対応を継続してほしいとの希望を書いております。

<主な要望>

- 給食食材の検査・管理の徹底
- プールの水の検査
- 今後また震災があった場合の連絡方法の確認
- 震災・放射線についての子どもたちへの教育
- 山林遊びや外遊びの再開の可能性の検討

8 最後の自由記入欄から

<何をどこまで心配するか>

- 最も多くの方が、「何をどこまで心配すればよいのか」「いま何が必要な対策なのか分からない」「正確な情報が分からない」と、現状の不確かさへの不安や苛立ちを書いております。
- 震災から時間が経過し、無頓着になりつつあることへの不安、反省も目立ちました。
- 気にしすぎると却ってストレスになり、子どもも外で遊べないことで体力が低下するなど、放射線の影響について考えることのデメリットを気にしておられる方もいました。

＜被曝への不安＞

- 震災当初は放射性物質が飛来している事を知らず、3月に子どもを外遊びさせてしまったこと、雨の中を学校から帰ってきた子どもがいること、高線量の場所にでかけてしまったこと、ブルーベリーなどを外で採って食べていたことなど。
- 低線量の外部被曝や内部被曝が5年後、10年後にどのように影響するのか、不安に思っている方が多かったです。無料の健康調査や検診、診療に対する希望がとても多く寄せられました。
- 「ただちに影響しない」としても、子どもたちが出産する際に、その子どもにも影響が出る可能性があるのかどうか心配する声も複数ありました。

<育児・子どもへの対応>

- 外遊びから早く帰ろうと言うと、「放射能だから？」と子どもに聞かれてつらかった。山で拾ってきた松ぼっくりなども、放射性物質が心配でこっそり処分したりした。
- 早く伸び伸びと山林や公園で遊べるようにしてあげたいが、現状では被曝が不安。しかし体力低下やストレスの蓄積につながることも心配。
- 放射線に対する考え方は人によって異なるので、なるべく自分で情報を集めて、子どもたちの世代のために今できることはしておこうと思う。

<その他・全般について>

- 周囲にはあまり放射能について気にしていない人が多く、誰に相談してよいのか、相談しづらい、という悩みも少数書かれていました。
- 福島県への対策に比べて、栃木県を含めた他県の高線量地域への国や自治体の対策があまりに遅く、不十分ではないか、という批判もみられました。
- 放射性物質以外にも、残留農薬や食品添加物など、健康に影響を与える物質が多く食品に含まれているので、食と健康全般についてより関心を高める必要性も指摘されてきました。

おわりに

現状から見えてくる問題

9割以上の回答者が、放射線量が下がらないなかでの子育てや生活に不安を感じているにもかかわらず、なぜ十分な対策がとられていないのか。

- ・ 福島以外の高線量地域の調査・情報の不足
- ・ 不均等な汚染分布
 - 市町村や県全体の問題となりにくい
- ・ 生産者や観光産業への影響に対する懸念
- ・ 不安を感じている人々が声を上げにくい環境
- ・ 1年半が経過した後の疲れ・あきらめ

→ 「隠れた被災者」問題を考え続ける必要性

福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト (FSP)

宇都宮大学国際学部附属
多文化公共圏センター (CMPS)
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL&FAX: 028-649-5228

メール: fukushimachildren@gmail.com

ブログ: <http://sicpmf.blog55.fc2.com/>

アンケートの配布と回収にご協力くださいました
園の関係者の皆さまにお礼を申し上げます。